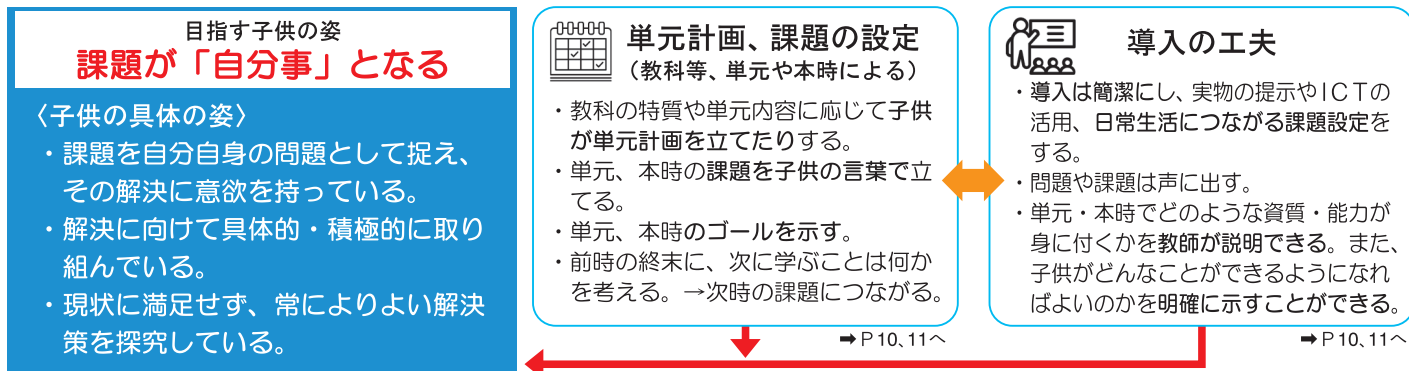


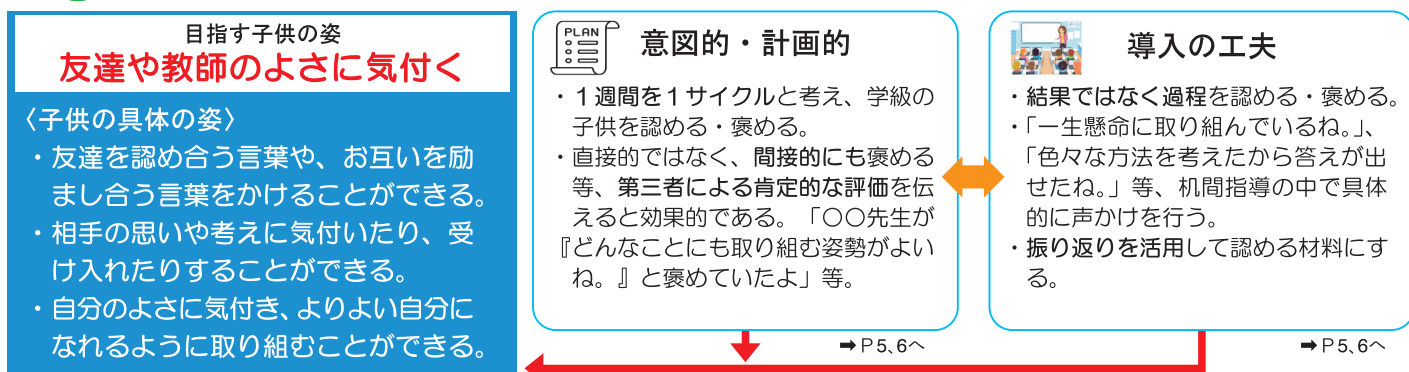
グッドプラクティスから見える、授業改善のポイント

埼玉県学力・学習状況調査の結果から児童生徒の学力を特に伸ばした「教科担当」「学級担任」を抽出し、その教師の「質問紙調査」における質問項目を調査したところ、共通して以下3つの項目に最も力を入れていることがわかった。子供の学力を伸ばした教師の取組（グッドプラクティス）を参考にすること。

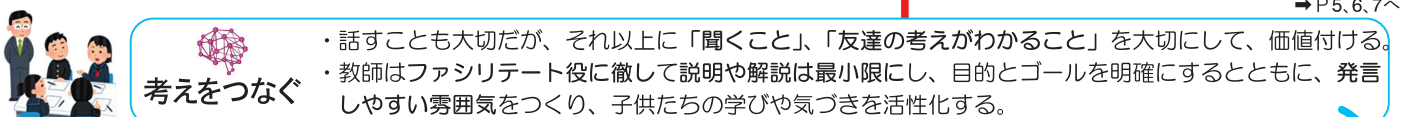
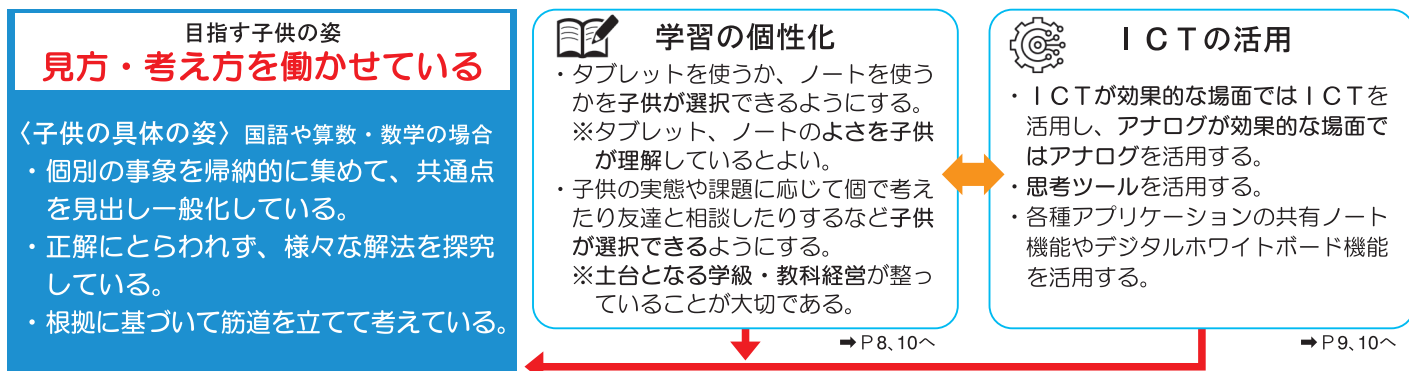
1 本時の課題を正しく伝え、子供に見通しをもたせること



2 子供一人一人の伸びや変容を気にかけ、積極的に認め褒めること



3 子供の考えを広げ深められるよう、教具を工夫して用いること



ファシリテーション力を高めることで、学びの主語を子供たちに

- ①子供の発言をつなげる (学びの促進者)：教師と発言した子供と1対1の会話だけで終わっていないか。
- ②子供に気付かせる (学習者中心)：教材研究で得たものを教える・伝えるだけになっていないか。
- ③子供の学びに伴走する (学びの伴走者)：子供が教師に相談したときに、安易にすぐ答えを教えていないか。
- ④子供が学びに向かう (個別最適・協働的)：課題の難易度はどうか。クラスは協働的に学びに向かう雰囲気であるか。

グッドプラクティス
R2～R5



R2



R3



R4



R5

子供たちの学びの深まり方は、教師の関わり方ひとつで大きく変わります。